

2023年12月2日(土)、東邦大学習志野キャンパスで、「第21回林忠四郎記念講演会」が開催されました。この講演会は、理論宇宙物理学のパイオニアである林忠四郎(1920-2010)の世界的な業績を記念して、1998年からほぼ毎年全国各地の大学で行われてきましたが、今回は東邦大学および近隣大学の学生・教職員を主な対象として開催されました。ちなみに、理論宇宙物理の研究者は今や全国各地に大勢いますが、その多くは林忠四郎の孫弟子や曾孫弟子にあたり、東邦大の教員2名も曾孫弟子です。

開会の挨拶が古田寿昭さん(東邦大学理学部長)からあった後、前半部の講演は、本間希樹さん(国立天文台水沢 VLBI 観測所所長)による「人類が初めて見たブラックホールの姿」でした。本間さんは、ブラックホールの「影」の撮影に世界で初めて成功した「イベントホライズン望遠鏡プロジェクト」の日本チーム代表者で、日本天文学会林忠四郎賞を2020年度に受賞されています。本間さんたちが撮影した画像はメディアでも大きく取り上げられましたので、目にされた方も多いかもしれません。



講演中の本間希樹さん

ブラックホールは、もともとはアインシュタインによる一般相対論を用いて存在が予言されましたが、その姿を見た人は誰もいませんでした。そのようなブラックホールを、世界各地の望遠鏡を結集することで、どのようにして「見る」ことができたのかについて、大学1

年生にもわかりやすく本間さんはお話してくださいました。光さえも脱出できないと言われているブラックホールがなぜ見えるのか、なぜたくさんの望遠鏡が必要なのかなど、本間さんの講演を聞いて目からウロコが落ちた人も多かったようです。

後半部の講演は、佐藤文隆さん(京都大学名誉教授)による「林先生の宇宙物理学」でした。一般相対論の方程式はとても複雑で、厳密解は現在でも数えるほどしか見つか

っていないのですが、
そのうちの一つ「富松-
佐藤解」を発見したの
が佐藤文隆さんです。
「宇宙の晴れ上がり」
という素敵な言葉の生
みの親でもあり、相対
論・宇宙論研究のまさ
にレジェンドで、御年
85歳！



講演中の佐藤文隆さん

佐藤文隆さんは、生
前の林忠四郎を間近で知る愛弟子としての視点から、林忠四郎がもともとは湯川秀樹
(日本初のノーベル賞受賞者)の助手として素粒子理論を研究していたことや、宇宙に
存在する元素のうち水素とヘリウムだけがビッグバン時に生成されたことを林忠四郎
がどのようにして突きとめたか、などについて楽しそうに語っていただきました。上の
写真のスクリーンに写っているのは、佐藤文隆さんご自身が描かれた漫画と思われます。

講演後には、参加した学生さんたちが講演者と直接話ができる茶話会も催され、時間
一杯までお二人を囲んでの質問(+記念撮影)ラッシュが続きました。



講演会会場の様子

今回の講演会は、多くの参加者にと
って一生に一度の貴重な体験となっ
たと思います。本間希樹さんと佐藤文
隆さんには、この場をお借りして深く
お礼を申し上げます。また、講演会を
開催する機会を提供して下さった
湯川記念財団にも感謝いたします。

(文責：東邦大学理学部物理学科 北山哲)